

## 2 . 流域及び河川の自然環境

### 2 - 1 自然環境

#### ( 1 ) 流域の自然環境

天塩川は、自然豊かな河川である。上流部は源流部周辺が天塩岳道立自然公園に指定され、豊かな森林資源に恵まれた山間を流れ、中流部は大規模稲作地帯の北限である名寄盆地から約 23km に及ぶ音威子府狭窄部などの山間狭窄部を流下し、中下流部には河川のショートカット工事による多くの旧川が点在している。また、下流部は大きく蛇行しながら畑作と酪農が盛んな天塩平野を流れ、河口付近において利尻礼文サロベツ国立公園に指定されている日本最北端の湿原であり貴重な動植物が生育・生息するサロベツ原野が広がっている。

なお、以下に天塩川流域における主な動植物の生息状況を、P.11～P.23 に天塩川における着目または留意すべき生物・生息地一覧を示す。着目または留意すべき種の選定は、天塩川水系河川水辺の国勢調査結果を基に、稀少性(天然記念物等の法指定種、環境省レッドデータブック、北海道レッドデータブックに記載されている種)、典型性(上中下流に広く分布し個体数が多い優占種)、特殊性(生態に特徴があり環境の指標となる種)の観点から天塩川の特徴的な種を抽出した。

#### ( 植生 )

北海道最北端を流れる流域の植生状況は、北部に位置しているため、低山地においても高山植物帯が形成されている。また、河口部にはサロベツ原野が広がり、利尻礼文サロベツ国立公園内のサロベツ川一帯はミスゴケ類が広く分布する貴重な高層湿原を形成し、高層から中間湿原には稀少種に属するナガバノモウセンゴケが分布するなど、湿原特有の植生や海浜植生が見られる特色のある植生状況を示している。

上流部の天塩川河岸はヤナギ類を中心とした自然林が広がり、特定種としてミクリ、タマミクリ、タヌキモ等が確認されている。中流部の河岸は主にヤナギ類、一部ヤチダモ、ハルニレ等が群落を形成し、特定種としてミクリ、カラフトモメンヅル、モメンヅル等が確認されている。下流部の河口付近はミスナラ群落やハマニンニク等の海浜性の植物が見られ、河岸にはヨシ群落、ヤナギ類が繁茂しており、特定種としてミクリ、エゾノカワジシャ、ノダイオウ、イトモ等が確認されている。

#### (陸上昆虫類等)

天塩川流域では様々な陸上昆虫類等が確認されている。特に、天然記念物に指定され天塩岳の山岳地帯に生息しているカラフトルリシジミや、北海道特産あるいは準北海道特産種であるオサムシ類やクワヤマトラカミキリ等が生息している。天塩川で確認されている陸上昆虫類等は、クモ類、腹足類、昆虫類を合わせ 1,013 種が確認されており、上流部ではアオゴミムシ、ヒメコガネ、コムラサキ等が生息し、特定種としてオオルリオサムシ、ケマダラカミキリ、ヒメギフチョウ等が生息している。中流部ではオオクロナガゴミムシ、エンマコオロギ、ヘビトンボ等が生息し、特定種としてオオルリオサムシ、カラフトヨツスジハナカミキリ、カラフトマルトゲムシ等が生息している。下流部ではヒシバツタ、ヘビトンボ等が生息し、特定種としてオオルリオサムシ、キタイトンボ、イソコモリグモ、ミズムシ等が生息している。

#### (底生動物)

天塩川で確認されている底生動物は、貝類、甲殻類等を含めて 60 種が確認されており、上流部ではカゲロウ・トビケラ等が生息し、中流部ではトビケラ、シマイシビル等が生息し、下流部は感潮区間でもあることから、ヤマトシジミ、スジエビ、モクズガニ等が生息している。また、汽水域である天塩川本川下流やサロベツ原野内の沼では、内水面共同漁業権の対象となっているヤマトシジミが生息している。

#### (魚類)

天塩川で確認されている魚類は、36 種が確認されており、主にウグイ類、サクラマス、フナ類、フクドジョウ、ワカサギ等が分布している。特定種としては、トミヨ類、イトヨ、イトウ等が挙げられる。上流部ではヤマベやウグイ類、トミヨ等が分布し、中流部では、ウグイ類、ハナカジカ、フクドジョウ等が分布し、旧川の智恵文沼にはヒブナが生息しており、地元小学生を中心に保護活動が行われている。また、美深町の親水公園では、昭和初期まで天塩川に数多く遡上していたチョウザメの増殖研究が行われている。下流部では、日本最大の淡水魚類であるイトウのほか、ワカサギ、ヌマガレイ等が分布している。

一方、天塩川はサケ・マスの遡上河川であり、現在、幌延町(天塩川)、中川町(パンケナイ川)、美深町(美深川)の3箇所に捕獲場があり、稚魚の放流事業も行われている。

なお、下流部に内水面共同漁業権(留内共第1号:シジミガイ・ワカサギ)が設定されている。

#### (両生類・は虫類)

天塩川流域では北海道内に生息する有尾両生類のうち、特定種であるエゾサンショウウオが流域全体で確認されている。

天塩川で確認されている両生類・は虫類については、両生類が3科5種、は虫類が1科1種の生息が確認されており、主にワンドや水たまりにはエゾサンショウウオや、アカガエル等が生息している。また、北海道では唯一、サロベツ原野において特定種であるコモチカナヘビの生息を確認している。

(鳥類)

天塩川流域では 200 種程度の鳥類が生息しているものと思われ、このうち天塩川では、45 科 192 種の生息が確認されている。確認種のうち種類及び個体数ともスズメが優先している。特にサロベツ原野では、天然記念物に指定されているオジロワシ、ヒシクイ、マガンの他、本邦では稀な特定種であるミコアイサの繁殖が確認されている。

上流部で確認された鳥類は特定種であるオシドリや、マガモ等の水鳥類、ヒバリやイワツバメ等の草原性の鳥類が見られ、中流部では特定種であるカワセミや、アオサギ、カワアイサ等の水鳥類の他、草原性のヒバリ、コヨシキリ等が見られる。また、環境の指標となる種であるカワガラス、エゾセンニュウが上中流部で見られる。下流部ではショウドウツバメ、ノビタキ等の草原性種、オジロワシ、特定種であるチュウヒ等の猛禽類、マガン、カワアイサ等の水鳥が見られる他、環境の指標となる種であるシマセンニュウ、マキノセンニュウ、エゾセンニュウ、カワガラスが見られる。

また、天塩川河川区域には鳥獣保護区域の指定はないが、中川、智恵文、サロベツ地域が保護区域に隣接している。

(哺乳類)

天塩川流域で確認されている哺乳類は、エゾシカ、ヒグマ、キツネ、エゾタヌキ、エゾリス、エゾモモンガ等、北海道内各地で確認されている一般的な獣類の生息が確認されている。

天塩川で確認されている哺乳類は、8 科 23 種の生息が確認されており、主にキツネやエゾタヌキ、エゾユキウサギ、エゾアカネズミ等一般的な獣類が生息している。特に特定種としては、サロベツ原野に生息する世界最小の哺乳類であるトウキョウトガリネズミや、流域全体で確認されているエゾクロテンがあげられる。

出典：第 1 回・第 2 回自然環境保全基礎調査

平成 11 年度天塩川水系(天塩川下流)植物調査報告書

平成 11 年度天塩川水系(天塩川上流)植物調査報告書

平成 5 年度天塩川水系(天塩川上流)植物調査報告書

平成 9 年度天塩川水系(天塩川下流)陸上昆虫類等調査報告書

平成 9 年度天塩川水系(天塩川上流)陸上昆虫類等調査報告書

平成 4 年度天塩川水系(天塩川上流)陸上昆虫類等調査報告書

平成 8 年度天塩川水系(天塩川下流・問寒別川・サロベツ川)

底生動物調査報告書

平成 8 年度石狩川上流・天塩川上流河川水辺の国勢調査

(天塩川上流 底生動物調査)

平成 4 年度天塩川水系(天塩川上流)底生動物調査報告書

平成 8 年度天塩川水系(天塩川下流・問寒別川・サロベツ川)

魚介類調査報告書

平成 8 年度石狩川上流・天塩川上流河川水辺の国勢調査

(天塩川上流 魚介類調査)

平成 4 年度天塩川水系(天塩川上流)魚介類調査報告書

平成 10 年度天塩川水系(天塩川下流)両生類・は虫類・哺乳類調査報告書

平成 10 年度天塩川水系(天塩川上流)両生類・は虫類・哺乳類調査報告書

平成 4 年度天塩川水系(天塩川上流)両生類・は虫類・哺乳類調査報告書

平成 6 年度天塩川水系(天塩川下流)鳥類調査報告書

平成 6 年度天塩川水系(天塩川上流)鳥類調査報告書

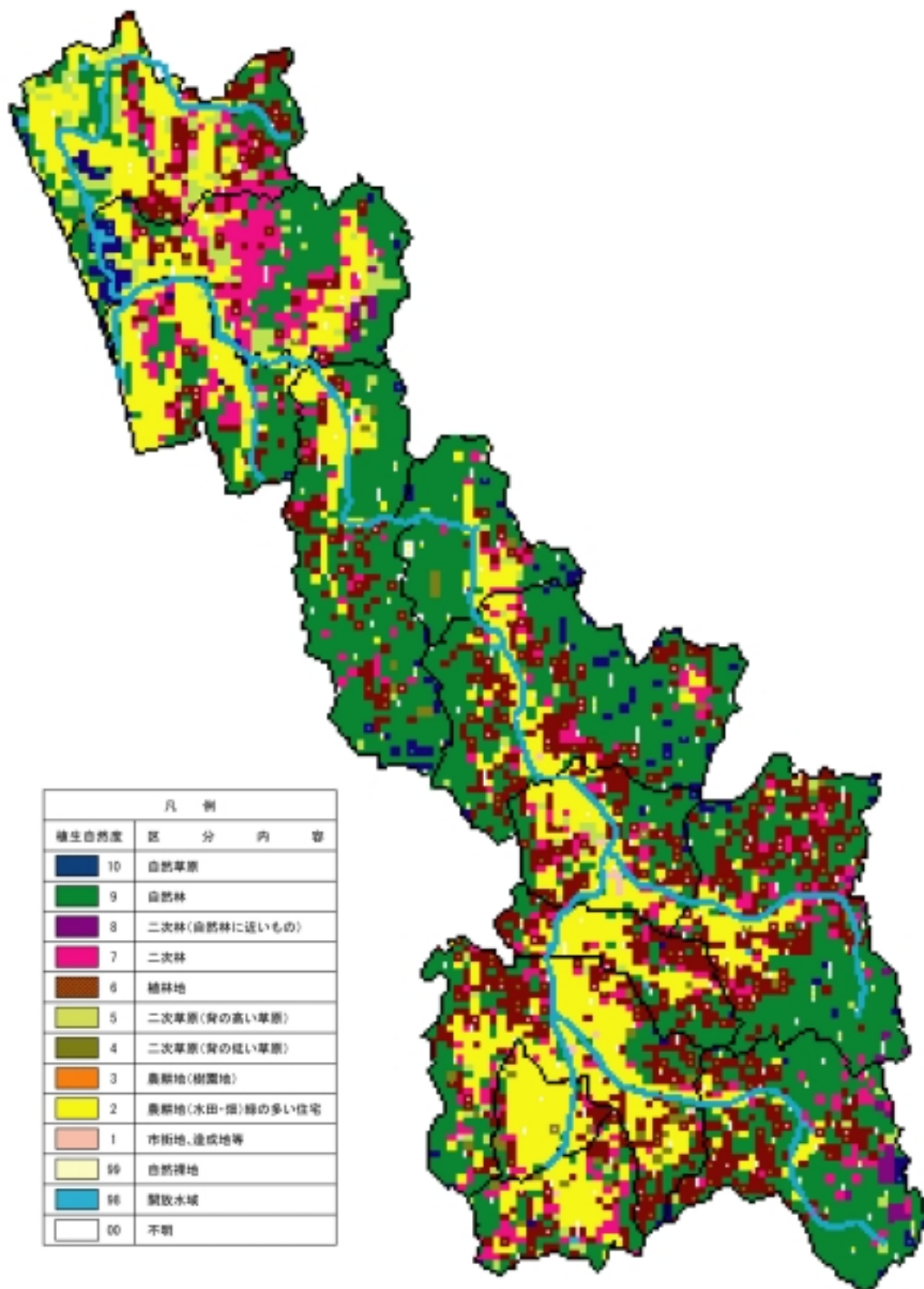


図 - 7 天塩川流域の植生分布図

出典:この資料は、環境省の第3回植生調査のインターネットによる出力図を引用したものである。

天塩川水系流域における着目または留意すべき生物・生育地など

植物	<p>ホソバイヌタデ <i>Persicaria erecto-minor var. trigonocarpa</i></p>	<p>環境庁 R D B (2000年) 絶滅危惧 B類: Aほどではないが近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。 洪水による自生地の消失・植生の遷移・河川や湿地の開発が減少要因となる種。 水辺に生育する1年草。開花時期は8~10月。本州、九州に分布する。 サロベツ川(H5)で確認された。</p>
	<p>ノダイオウ <i>Rumex longifolius</i></p>	<p>環境庁 R D B (2000年) 絶滅危惧 類: 絶滅の危険が増大している種。 池沼の開発、植生の遷移、道路工事が減少の主要因となる種。 湿った草地・荒地に生育する多年草。開花時期は6~8月。北海道、本州(北・中部)に分布する。 天塩川の左岸河口部0.2km(H5)、右岸4.4km(H5)、問寒別川の右岸16.2km(H5)で確認された。</p>
	<p>チシママンテマ <i>Silene repens var. latifolia</i></p>	<p>環境庁 R D B (2000年) 絶滅危惧 A類: ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの、北海道 R D B (2001年) 希少種: 存続基盤が脆弱な種。 山地の草地、礫地に生育する多年草。開花時期は6~7月。北海道にのみ分布する。 天塩川の名寄大橋下流付近(H5)で確認された。</p>
	<p>マツモ <i>Ceratophyllum demersum</i></p>	<p>北海道 R D B (2001年) 希少種: 存続基盤が脆弱な種。 湖沼や河川で水深1m以内の浅水中に生育する沈水性の多年草。開花時期は6~8月。北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布する。 天塩川左岸側27km付近の東ウブシ地区の旧川(H11)で確認された。</p>
	<p>ホロムイイチゴ <i>Rubus chamaemorus</i></p>	<p>「緑の国勢調査報告書」における「すぐれた自然の調査」の貴重な種および貴重な群落。高層湿原を指標する種。 寒地の泥炭地に生育する多年草。開花時期は6月~7月。北海道、本州(北部)に分布する。 天塩川の右岸27.0kmのヨシ・ササ群落内(H5, H11)で確認された。</p>
	<p>モメンツル <i>Astragalus reflexistipulus</i></p>	<p>北海道 R D B (2001年) 希少種: 存続基盤が脆弱な種。 河原の砂礫地、覆道上の砂地に生育する。開花時期は6月下旬~7月。日本固有種であり、北海道と本州に分布する。 天塩川の名寄橋下流左岸付近(H11)で確認された。</p>
	<p>カラフトモメンツル <i>Astragalus schelichorii</i></p>	<p>環境庁 R D B (2000年) 絶滅危惧 類: 絶滅の危険が増大している種、北海道 R D B (2001年) 希少種: 存続基盤が脆弱な種。 河原の砂礫地から岩礫地、崩壊状の林道に生育する多年草。開花時期は5~7月。北海道、本州に分布する。 天塩川の名寄橋下流左岸付近(H11)で確認された。</p>
	<p>イワオウギ <i>Hedysarum vicioides</i></p>	<p>北海道 R D B (2001年) 希少種: 存続基盤が脆弱な種。 亜高山帯の針葉樹林帯からハイマツ帯の開けた場所に生育し、とくに崩壊斜面や砂礫質土壌に多い。開花時期は7月。北海道、本州(中部地方以北)に分布する。 天塩川の名寄大橋下流右岸付近(H5)、班溪橋下流右岸付近(H5)で確認された。</p>
	<p>オオバタチツボスミレ <i>Viola kamschadalorum</i></p>	<p>環境庁 R D B (2000年) 絶滅危惧 類: 絶滅の危険が増大している種。 池沼・湿地の開発、ダム建設が減少の主要因となる種。 湿った草原、泥炭地に生息する多年草。開花時期は5月~7月。北海道、本州(北部)に分布する。 サロベツ川の音類橋付近(H11)で確認された。</p>
	<p>イソツツジ <i>Ledum palustre var. nipponicum</i></p>	<p>「緑の国勢調査報告書」における「すぐれた自然の調査」の貴重な種および貴重な群落。高層湿原を指標する種。 高山の湿地や傾斜地に生息し、ハイマツ低木林の林縁、湿原、硫気孔周辺に優占した群落をつくる高さ1m内外の小低木。開花時期は6~7月。北海道、本州(福島県北部以北)に分布し、火山地域に多い。 天塩川の右岸27.0kmのシラカンバ群落内及びヨシ・ササ群落内(H5)、右岸28.2~28.4kmのヨシ・ササ群落内(H5)で確認された。</p>

天塩川水系流域における着目または留意すべき生物・生育地など

植物	<p>エゾナミキソウ <i>Scutellaria yezoensis</i></p>	<p>環境庁 R D B (2000年) 絶滅危惧 B類: Aほどではないが近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの。 湿地に生育する多年草。開花時期は8~9月。北海道、本州(北部)に分布する。 問寒別川の右岸-0.6km(H5, H11) で確認された。</p>
	<p>エゾノカワジシャ <i>Veronica americana</i></p>	<p>「緑の国勢調査報告書」における「すぐれた自然の調査」の貴重な種および貴重な群落。 渓流のほとりの湿地に生育する多年草。開花時期は7月~8月。北海道に分布する。 天塩川の河口の本川とロクシナイ川との合流点(H5)、小車大橋上流右岸付近(H11)で確認された。</p>
	<p>タヌキモ <i>Utricularia australis</i></p>	<p>環境庁 R D B (2000年) 絶滅危惧 類: 絶滅の危険が増大している種、北海道 R D B (2001年) 希少種: 存続基盤が脆弱な種。 池沼の開発、水質汚濁、湿地植生の遷移が減少の主要因となる種。 湖沼のため池などの浅水中に浮遊する多年生の食虫植物。普通殖芽で越冬する。開花時期は7月~9月。北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布する。 天塩川の左岸10.0kmの小面積の湿地(H5, H11)、班溪橋下流右岸付近(H5)で確認された。</p>
	<p>ホロマンノコギリソウ <i>Achillea alpina ssp.japonica</i></p>	<p>環境庁 R D B (2000年) 絶滅危惧 類: 絶滅の危険が増大している種。 草地・海岸の開発が減少の主要因となる種。 山地、海岸の草原に生育する多年草。開花時期は7~10月。北海道、本州(北・中部)に分布する。 天塩川の河口右岸3.4km~4.5kmの海岸草原で広範囲に確認された(H5, H11)。このほか右岸6.4km(H11)、8.1km(H11)、左岸0~5km内(H5)でも確認された。</p>
	<p>ホソバエゾノコギリ <i>Achillea ptarmica var.yezoensis</i></p>	<p>環境庁 R D B (2000年) 絶滅危惧 A類: ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの、北海道 R D B (2001年) 絶滅危惧種: 絶滅の危機に瀕している種。 蛇紋岩地帯に生育する多年草。開花時期は7月~10月。北海道の固有植物であり、生育地の1つが幌延問寒別である。 問寒別川1.8kmのヌブカナイ川との合流点付近(H5)、問寒別川の左岸8.2km地点(H11)で確認された。</p>
	<p>イトモ <i>Potamogeton pusilla</i></p>	<p>環境庁 R D B (2000年) 絶滅危惧 類: 絶滅の危険が増大している種。 水質汚濁、池沼・河川の開発が減少の主要因となる種。 池沼やため池、小川などの浅水中に生育する沈水性の多年草。種子または殖芽で越冬する。開花時期は5月~9月。北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布する。 天塩川の右岸側13.5km付近の旧川内(H5)、右岸24.4km付近の旧川内(H5)で確認された。</p>
	<p>ミクリ <i>Sparganium erectum ssp.stoloniferum</i></p>	<p>環境庁 R D B (2000年) 準絶滅危惧類: 存続基盤が脆弱な種、北海道 R D B (2001年) 希少種: 存続基盤が脆弱な種。 池沼や水路、水湿地などの浅い水中に群生する抽水植物。本種の生育環境は水溜りや止水部であり、このような止水部はヤンマ類などの幼虫の生息場所となっており、比較的小規模なものであっても水生生物にとって重要な空間となっている。開花時期は6~8月。北海道、本州、四国、九州に分布している。 天塩川の左岸10.0kmのドクゼリ・フトイ群落内(H5, H11)、右岸13.2kmの小水路内(H5)、左岸15.9km振老3号樋門付近(H5, H11)、左岸20.4km作返一号樋門の小水路(H5, H11)、30.8km安牛三号樋門と河川敷にある小沼とを結ぶ小水路(H5)、右岸側22km付近の旧川において散生または小群状に生育するほか、右岸側24.8kmの幌延の旧川(H5, H11)、左岸側27km付近の東ウブシ地区の旧川(H11)、右岸側90.6km付近(H5)、右岸側166.6km付近(H5)、右岸側180.2km付近(H5)、右岸側192.8km付近(H5)で群生しているのが確認された。</p>

天塩川水系流域における着目または留意すべき生物・生育地など

植物	タマミクリ <i>Sparganium glomeratum</i>	環境庁RDB(2000年)絶滅危惧 類:絶滅の危険が増大している種。山地の池沼の残水中や水湿地に自生する抽水性の多年草。開花時期は7~8月。北海道、本州(栃木県以北)に分布する。天塩川の班溪橋下流右岸付近(H11)で確認された。
	ヒメガマ <i>Typha angustifolia</i>	北海道RDB(2001年)希少種:存続基盤が脆弱な種。平地にある池沼、河川の水際、特に海岸近くにある水辺の残水中に大群生する。水深は1.5mまで耐えることができる。大型抽水植物で魚類などの産卵・生息・避難場所に利用される。開花時期は6~8月。北海道、本州、四国、九州に分布するが北海道では少ない。サロベツ川(H5)で確認された。
群落等	海岸の砂丘植生	天塩川河口右岸の海岸砂丘上に分布する海岸草原は、自然性が高く、ホロマンコギリソウ、ニッコウキスゲ、スズラン、エゾスカシユリ等を含めて群落自体が重要である。 河川水辺の国勢調査(H5,H11)の砂丘植生はハマニンニク・コウボウムギ群落、ハマナス群落に分類され、天塩川河口から6kmまでの右岸に分布する。
	旧川の水生植物群落	ミクリ、コウホネ、マツモ、タヌキモ、イトモ等の水生植物がみられる天塩川下流域の三日月湖や旧川は、天塩川の本来の姿を指標する意味で重要である。 天塩川の下流には多数の旧川がみられ、代表的なものとして、ミクリ、ヒシ、ミズドクサ等の群落が分布する右岸側24~25km付近の幌延の旧川、ミクリ、コウホネ等がみられる左岸側27km付近の東ウブシ地区の旧川が挙げられる。
	ハンノキ林・ヤチダモ林-ミズバショウ、ハルニレ林	ハンノキ・ヤチダモ林とそこに生育するミズバショウは、河畔の湿地林の典型である。またハルニレ林も河畔の発達した林分として重要であるので、面積の多少に関わらず留意すべきである。 ハンノキ林は、主にサロベツ川の両岸に分布しており、このほか天塩川の左岸8~10km、右岸11~13km、問寒別川の右岸13~15kmの区間に分布している。 ヤチダモ林は、天塩川の右岸8~9kmと12~13km、左岸の19~20km、40~41km、44~45km、及び問寒別川の左岸14~16kmの区間に分布が見られる。 ハルニレ林は、天塩川の左岸30~31km、右岸の32~34km、43~44km、及び問寒別川の左岸18~19kmの区間に分布している。
	ハルニレ群落、ヤチダモ群落	天塩川上流域は純然たるハルニレ群落、ヤチダモ群落はなく、ケヤマハンノキ、ミズナラ等と混生した林分となっており、これらは断片的、かつ未熟な林分であるが河畔本来の森林の姿を残す意味、また将来的に河畔林を再現する場合に重要と思われる群落である。 ケヤマハンノキ・ハルニレ群落は天塩川では48~203kmの区間、名寄川では3~34.6kmの区間で左右岸に断片的に分布が見られた。 ミズナラ・ハルニレ群落は天塩川では右岸87~88kmの区間、名寄川では左岸25~26kmの区間、右岸30~31kmの区間で分布している。 ミズナラ・ヤチダモ群落は名寄川で左岸25~26km、31~32kmの区間で分布している。

天塩川水系流域における着目または留意すべき生物・生育地など  
(河川改修等改変に影響を及ぼす可能性のある種を対象に抽出)

陸上昆虫類等	<p>イソコモリグモ <i>Lycosa ishikariana</i></p>	<p>海浜植物に依存する種。 北海道から本州にかけて日本海側（青森県では一部太平洋側）に生息する海浜性の大型クモである。海岸線からやや離れた海浜植物の根際など砂浜に穴を掘って住居をつくり、夜間に昆虫や海浜性小動物を捕食する。 天塩川の天塩河口地区(H9)で確認された。</p>
	<p>ミズムシ <i>Asellus hilgendorfi hilgendorfi</i></p>	<p>環境庁RDB(1991年)希少種(存続基盤が脆弱な種)。 池沼や水田など普通に見られる。小魚やオタマジャクシなどを捕らえ、体液を吸う。 天塩川の天塩河口地区(H9)、幌延旧川地区(H9)で確認された。</p>
	<p>キタイトトンボ <i>Coenagrion ecorutum</i></p>	<p>「日本の重要な昆虫類」における指標昆虫及び特定昆虫。 成虫の出現は5月中旬から出現し、主にミズドクサやスゲ類、ミツガシワなどの挺水植物やヒルムシロ・ヒシなどの浮葉植物が沈水植物が繁茂する寒冷な池沼や湿原に生息する。日本では北海道のみに分布する。 天塩川の幌延旧川地区(H9)で確認された。</p>
	<p>ルリイトトンボ <i>Enallagma boreale circulatum</i></p>	<p>「日本の重要な昆虫類」における指標昆虫及び特定昆虫。 成虫は6月中旬から出現し、北海道では平地の挺水植物や浮葉植物、沈水植物などが茂る池沼や湿地の滞水に生息する。 天塩川の幌延旧川地区(H9)で確認された。</p>
	<p>ムカシトンボ <i>Epiophlebia superstes</i></p>	<p>北海道RDB(2001年)留意種：保護に留意すべき種、「緑の国勢調査報告書」における「すぐれた自然の調査」対象種、「日本の重要な昆虫類」における指標昆虫および特定昆虫。 山間の森林に囲まれた急流に生息する。幼虫は流れの早い瀬の石下などで石につかまって生活している。成虫は6月に出現し、飛翔力が強く、飛んでいることが多い。日本特産種。 名寄川の由仁内橋上流地区(H8)で確認された。</p>
	<p>ナツアカネ <i>Sympetrum darwinianum</i></p>	<p>北海道RDB(2001年)希少種：存続基盤が脆弱な種。 おもに平地や丘陵地、低山地の挺水植物が繁茂する池沼や湿地、湿原、水田などに生息する。成虫は6月下旬～晩秋にかけて出現する。北海道では産地がかなり局地的であり珍しい種。 天塩川の車大橋上流地区(H3)、名寄大橋下流地区(H3)、班溪橋下流地区(H3)、サロベツ川の音類橋地区(H3)で確認された。</p>
	<p>ヒメリスアカネ <i>Sympetrum risi yosico</i></p>	<p>「緑の国勢調査報告書」における「すぐれた自然の調査」対象種、北海道RDB(2001年)希少種：存続基盤が脆弱な種。 主に森林におおわれたやや鬱閉的な挺水植物が生い茂る植物性沈積物の多い池沼や湿地に生息する。成虫は知床林道では7月中旬～10月中旬頃に出現する。北海道全域に分布しているが産地は局地的である。 天塩川の幌延旧川地区(H9)で確認された。</p>
	<p>ミズカマキリ <i>Ranatra chinensis</i></p>	<p>個体数が減少している種。 池・沼に多く、水生植物の間に棲む。夜間に水から離れて遠くまで飛翔する。 天塩川の幌延旧川地区(H9)で確認された。</p>
	<p>ヘビトンボ <i>Protohermes grandis</i></p>	<p>溪流（清流）に生息する種。 幼虫は溪流の石礫底に生息する。成虫は6～8月に出現し、しばしば灯火に飛来する。 天塩川の幌延旧川地区(H9)、問寒別川合流点地区(H3)、車大橋上流地区(H3、H9)、班溪橋下流地区(H9)、問寒別川の上問寒別地区(H3)で確認された。</p>



天塩川水系流域における着目または留意すべき生物・生育地など

陸上昆虫類等	オオウスバカゲロウ <i>Heoclisia japonica</i>	北海道 R D B (2001年) 希少種：存続基盤が脆弱な種。 この仲間では最大の種。成虫は7～8月頃出現し、灯火などにも訪れる。 幼虫は砂地（海岸などに多い）に生息し、他の昆虫を捕食する。 天塩川の下車大橋上流地区 (H3) で確認された。
	リンゴシジミ <i>Fixsenia pruni</i>	北海道 R D B (2001年) 希少種：存続基盤が脆弱な種。北海道特産。 成虫は年一回6月中旬から7月上旬に出現し、食樹により生息環境が変わり、エゾノウワミズザクラをたべる集団は河川敷から山地の溪流沿いに生息し、スモモ、ウメを食べる集団は民家周辺に生息する。 天塩川の間寒別川合流点地区 (H3) で確認された。
	カバイロシジミ <i>Glaucopsyche lycormas</i>	「緑の国勢調査報告書」における「すぐれた自然の調査」対象種、「日本の重要な昆虫類」における指標昆虫及び特定昆虫。 成虫は6月初旬～7月中旬に出現し、平地から低山地のやや人手の加わったクサフジの見られる草地に生息し、クサフジの分布が変わると共に産地が移動することがある。幼虫の食草はクサフジ、ツルフジバカマ、ヒロハノクサフジ。 天塩川の天塩河口地区 (H9) で確認された。
	キタアカシジミ <i>Japonica onoi</i>	環境庁 R L (2000年) 絶滅危惧 類：絶滅の危険が増大している種、北海道 R D B (2001年) 留意種：保護に留意すべき種。 成虫は7月に出現し、幼虫はカシワを食樹としている。 天塩川の下車大橋上流地区 (H9) で確認された。
	コムラサキ <i>Apatura metis</i>	ヤナギ類などに依存している種。 成虫は7月から8月中旬にかけて出現し、平地から山地の川原などのヤナギ林周辺に生息する。幼虫の食樹はバッコヤナギ、エゾノカワヤナギ、ドロノキなどヤナギ類やヤマナラシ類を広く食べる。 天塩川の幌延旧川地区 (H9)、下車大橋上流地区 (H3, H9)、班溪橋下流地区 (H3, H9)、間寒別川の上間寒別地区 (H9)、名寄川の由仁内橋上流地区 (H9) で確認された。
	ヒメギフチョウ北海道亜種 <i>Luehdorfia puziloi yessoensis</i>	環境庁 R L (2000年) 準絶滅危惧・北海道 R D B (2001年) 希少種：存続基盤が脆弱な種。 丘陵地から山地の落葉広葉樹の疎林に生息する。成虫は5月上旬頃出現し、幼虫はオクエゾサイシンを食草としている。 天塩川の下車大橋上流地区 (H4)、班溪橋下流地区 (H4) で確認された。
	エゾクロバエ <i>Onesia hokkaidensis</i>	北海道 R D B (2001年) 希少種：存続基盤が脆弱な種。 成虫は6～8月頃出現し、山地の溪流沿いや路傍の葉上で見られる。 名寄川の由仁内橋上流地区 (H9) で確認された。
	オオルリオサムシ <i>Damaster gehinii</i>	「緑の国勢調査報告書」における「すぐれた自然の調査」対象種、「日本の重要な昆虫類」における指標昆虫及び特定昆虫。 成虫は4月下旬から10月ころまで見られ、平地から山地の林や草地に生息する。肉食性でカタツムリ類、ミミズ類などを捕食する。地方亜種が多く記録されている。北海道特産でありどこにでも見られるが、河川敷としては珍しい。 天塩川の天塩河口 (H3, H9)、下車大橋上流地区 (H3)、名寄川の由仁内橋上流地区 (H9) で確認された。
	シロスジコガネ <i>Polyphylla albolineata</i>	「日本の重要な昆虫類」における指標昆虫及び特定昆虫。 海岸松林などに多く生息し、夜間燈火に飛来する。 天塩川の天塩河口 (H9) で確認された。
	エカシマルトゲムシ <i>Byrrhus ekashii</i>	北海道 R D B (2001年) 希少種：存続基盤が脆弱な種。 夏季に石の下やコケの上などでみられ、また、地表などで採集される。 天塩川の下車大橋上流地区 (H3・H4) で確認された。

天塩川水系流域における着目または留意すべき生物・生育地など

陸上昆虫類等	カラフトマルトゲムシ <i>Byrrhus geminatus</i>	北海道 R D B (2001年) 希少種：存続基盤が脆弱な種。 夏季に石の下やコケの上などでみられ、また、地表などで採集される。 天塩川の 小車大橋上流地区 (H3・H9) で確認された。
	ケマダラカミキリ <i>Agapanthia daurica</i>	環境庁 R L (2000年) 準絶滅危惧：存続基盤が脆弱な種、北海道 R D B (2001年) 留意種：保護に留意すべき種。 成虫は6月～8月に出現し、ヨモギ、オオハンゴンソウ、ハンゴンソウなどの葉や茎の上でみられ、幼虫はそれらの生茎を食草としている。 天塩川の 班溪橋下流地区 (H9)、サロベツ川の 音類橋地区 (H9) で確認された。
	カラフトヨツスジハナカミキリ <i>Leptura quadrifasciata</i>	北海道 R D B (2001年) 希少種：存続基盤が脆弱な種。 成虫は夏季に出現し、エゾニュウなどのセリ科の花によく訪れる。ヤナギ類、シラカンバなどを食樹とする。 天塩川の 幌延旧川地区 (H9)、名寄大橋下流地区 (H3) で確認された。
	チャイロスズメバチ <i>Vespa dybowskii</i>	北海道 R D B (2001年) 希少種：存続基盤が脆弱な種。 一時寄生種で、モンスズメバチなどの巣に侵入する。 天塩川の 小車大橋上流地区 (H3) で確認された。

天塩川水系流域における着目または留意すべき生物・生育地など

魚類	<p>カワヤツメ <i>Lethenteron japonicum</i></p>	<p>漁業対象種。 幼生は河川中流域の淵や下流のやわらかい泥の中で生活し、泥中の有機物や珪藻類を食べる。変態後の若魚は水流が強くあたり、湿生植物の根が露出している場所に潜んでいる。産卵場は河川中流域の淵尻や平瀬である。 天塩川の幌延旧川地区(H8)、問寒別川合流点地区(H8)、小車大橋上流地区(H8)、名寄大橋下流地区(H8)、班溪橋下流地区(H8)、サロベツ川の音類橋地区(H8)、問寒別川の右岸1号樋門(H8)、東延橋上流(H8)で確認された。</p>
	<p>ワカサギ <i>Hypomesus transpacificus nipponensis</i></p>	<p>漁業対象種。 海の内湾、湖沼、人工湖と、これらに注ぐ川の下流域に生息し、プランクトン動物を主に食べる。産卵期は1～5月頃で、湖沼や川の岸、川底で枯れ木や水草、水没した枯れ草、茎、枝、根などに産卵する。 天塩川の天塩河口地区(H8)、天塩河口橋地区(H4)、幌延旧川地区(H8)、円山観測所地区(H4)、問寒別川合流点地区(H8)、新問寒別橋観測所地区(H4)、小車大橋上流地区(H4)、名寄大橋下流地区(H4,H8)、サロベツ川の音類橋地区(H4,H8)で確認された。</p>
	<p>イトウ <i>Hucho perryi</i></p>	<p>「第2回緑の国勢調査」における「日本の重要な淡水魚」指定種、環境庁RDB(1991年)危急種(絶滅の危険が増大している種)・環境庁RL(1999年)絶滅危惧B類(Aほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの)。 日本最大の淡水魚で北海道にのみ分布する。北海道では多くは汽水域まで下るので、降海する個体は一部にすぎず沿岸域に限られている。産卵期は4～5月。あまり落差のない本流上流域や中小の支流に遡上し、浅くて流れの速い平瀬にメスが産卵床を掘って、その中に産卵する。孵化した仔魚は産卵床にしばらくとどまり、7月末～8月上旬に稚魚として浮上する。稚魚は夜間に流れ下りながら散らばり、浅い瀬に定着した個体は、流れに定位して水生昆虫や落下昆虫などの流下昆虫を摂餌する。全長15cm前後から魚を食べようになり、全長30cmを越すころから餌の殆どが魚になる。 天塩川の幌延旧川地区(H8)、問寒別川合流点地区(H8)、問寒別川の十六線川地区(H4)で確認された。</p>
	<p>サケ <i>Oncorhynchus keta</i></p>	<p>漁業対象種。 砂利底から地下水の湧き出るところを産卵場とする習性を持つ。生まれた稚魚の淡水生活期間が数日から長くとも1～2ヶ月と短いことから、主に中・下流域が生息場所となる。秋に遡上・産卵する。 天塩川の天塩河口地区(H8)、幌延旧川地区(H8)、小車大橋上流地区(H8)、問寒別川の右岸1号樋門地区(H8)で確認された。</p>
	<p>サクラマス ヤマベ(ヤマメ) <i>Oncorhynchus masou masou</i></p>	<p>北海道RDB(2001年)留意種：保護に留意すべき種。 サクラマスは4月ころより遡上し、9月から10月にかけて産卵する。河水の浸透する砂礫底の淵から瀬に移るところが産卵場所となる。孵化後、稚魚は少なくとも一年間の淡水生活を送り、降海する。ヤマベ(ヤマメ)は傾斜が急で、大きな転石や岩盤からなり、淵と早瀬や落ち込みが交互に連なるところに生息する。水生昆虫、主にカゲロウ目と双翅目の幼虫や落下昆虫などを食べる。産卵場は淵尻の砂礫底に産卵床をつくり、くぼみの中で産卵する。 天塩川の問寒別川合流点地区(H8)、新問寒別橋観測所地区(H4)、小車大橋上流地区(H4,H8)、班溪橋下流地区(H8)、問寒別川の右岸1号樋門地区(H4,H8)、東延橋上流地区(H4)、上豊神観測所地区(H4)、十六線川地区(H4)、名寄川の由仁内橋上流地区(H4,H8)で確認された。</p>
	<p>トミヨ <i>Pungitius sinensis</i></p>	<p>「第2回緑の国勢調査」における「日本の重要な淡水魚」指定種。 キタノトミヨによく似ていて、湿原をゆるやかに流れる川の中・下流域や湖沼に生息する冷水性の淡水魚。岸寄りの水草の中に多く、小型の甲殻類やユスリカ科幼虫を摂食している。産卵期は5月上旬～7月下旬で川岸の水草の枝などに植物の繊維等で球状の巣をつくり産卵する。 天塩川の天塩河口地区(H8)、班溪橋下流地区(H4,H8)、サロベツ川の音類橋地区(H8)、問寒別川の東延橋上流地区(H8)で確認された。</p>

天塩川水系流域における着目または留意すべき生物・生育地など

魚類	<p>エゾトミヨ <i>Pungitius tymensis</i></p>	<p>「第2回緑の国勢調査」における「日本の重要な淡水魚」指定種、環境庁RDB(1991年)希少種・環境庁RL(1998年)準絶滅危惧(存続基盤が脆弱な種)。 北海道北部・東部と石狩川流域の3地域に不連続に分布する。冬に湧水のあるところで群れることがある。産卵期は4月上旬～7月中旬。 天塩川の幌延旧川地区(H8)、問寒別川の右岸1号樋門地区(H8)で確認された。</p>
	<p>キタノトミヨ <i>Pungitius pungitius</i></p>	<p>北海道RDB(2001年)希少種：存続基盤が脆弱な種、「第2回緑の国勢調査」における「日本の重要な淡水魚」指定種。 湿原をゆるやかに流れる川の中・下流域や湖沼に生息する冷水性の淡水魚。岸寄りの水草の中に多く、小型の甲殻類やユスリカ科幼虫を摂食している。産卵期は5月上旬～7月下旬で川岸の水草の枝などに植物の繊維等で球状の巣をつくり産卵する。 天塩川の問寒別川合流点地区(H8)、名寄大橋下流地区(H8)、班溪橋下流地区(H4,H8)、サロベツ川の音類橋地区(H4,H8)で確認された。</p>
	<p>ハナカジカ <i>Cottus nozawae</i></p>	<p>北海道RDB(2001年)留意種：保護に留意すべき種。 中・上流域の平瀬の砂礫底や蛇行型の淵に多く生息する。肉食性かつ貪食であり、主に石に付着する水生昆虫を食し、ほかに流下昆虫、小型底生動物、小魚、サケ卵なども食べる。産卵場は通常の生息場所よりも流れの緩やかな平瀬で、雄は大形の礫石が散在する場所の浮石の下の空所になわばりとし、そこに雌が誘い込まれて産卵する。 問寒別川の右岸1号樋門地区(H4,H10)、東延橋上流(H8)、十六線川(H4)、名寄川の由仁内橋上流地区(H8)で確認された。</p>
	<p>ヒブナ <i>Carassius auratus</i></p>	<p>北海道RDB(2001年)：保護に留意すべき地域個体群。 ヒブナは、種としてはフナに含まれるが、亜種ではなく、フナの突然変異によって出現した体色が朱色のものである。また、分布が限定されており、保護上重要である。釧路市の春採湖のヒブナ個体群は国指定天然記念物に指定されている。 天塩川では智恵文沼や旧河川で個体群が確認された。</p>
	<p>チョウザメ <i>Acipenser medirostris</i></p>	<p>水産庁1998：絶滅危惧種、北海道RDB(2001年)：絶滅種 チョウザメは、大正から昭和の初期にかけて石狩川や天塩川に相当数が遡上しており、河川及びその近海で多数が捕獲されていた。昭和10年頃から急激に減少し、現在ではほとんどその姿を見ることができなくなった。日本産の本種についての生態は不明な点が多いが、産卵のために河川に遡上する遡河回遊魚である。1999年、天塩川河口から4km上流のサケマス捕獲用の網にかかり、この個体は外国の産卵群の一尾がたまたま迷いこんできたものと予想されている。</p>

天塩川水系流域における着目または留意すべき生物・生育地など

両生・爬虫・哺乳類	エゾサンショウウオ <i>Hynobius retardatus</i>	<p>北海道RDB(2001年)留意種：保護に留意すべき種、「緑の国勢調査報告書」における「すぐれた自然の調査」対象種、「日本の重要な両生類・は虫類」指定種。河川の直線化、氾濫源の消滅による湿地や池沼の減少が生息条件に大きな影響をもたらす種。</p> <p>平地から高地まで広く分布し、森林と止水がある場所や緩やかな流れの沢などに生息する。繁殖期は4月から7月にかけて雪解け水が集まる池沼などの岸辺に産卵する。また、平野部の河川域においては特に貴重な種である。</p> <p>天塩川の幌延旧川地区(H8)、小車大橋上流地区(H10)、班溪橋下流地区(H4,H10)、名寄川の由仁内橋上流地区(H4,H10)で確認された。</p>
	エゾアカガエル <i>Rana chensinensis</i>	<p>河川の直線化、氾濫源の消滅による湿地や池沼の減少が生息条件に大きな影響をもたらす種。</p> <p>海岸に近い平地から、2000mの山地までの森林や草原に住む。繁殖時期は、雪解け直後の4月～5月、高地では7月。産卵場所は、湿原、湿地、池、水たまり等の浅い止水で、緩やかな流れの溪流のたまりにも産卵する。</p> <p>天塩川の天塩河口地区(H10)、問寒別川合流点地区(H10)、小車大橋上流地区(H4,H10)、名寄大橋下流(H4,H10)、班溪橋下流地区(H4,H10)、サロベツ川の音類橋地区(H4,H10)、名寄川の仁内橋上流地区(H4,H10)で確認された。</p>
	エゾキウサギ <i>Lepus timidus ainu</i>	<p>河畔林の減少・分断化と河畔林のヤナギ林への単純化により生息環境に影響をもたらす種。</p> <p>低山帯、伐採跡地に生息する。基本的に夜行性で、巣は植物の陰や窪地などを利用する。繁殖は春から夏にかけ最大3回、産子数はふつう3子である。食性は植物食で草本類、木本類などの葉、枝、樹皮など多様である。日本に生息するウサギ目のうち最大の種。</p> <p>天塩川の天塩河口地区(H4)、小車大橋上流地区(H4,H10)、名寄大橋下流(H10)、班溪橋下流地区(H4,H10)、サロベツ川の音類橋地区(H4)、名寄川の由仁内橋上流地区(H4,H10)で確認された。</p>
	エゾリス <i>Sciurus vulgaris orientis</i>	<p>河畔林の減少・分断化と河畔林のヤナギ林への単純化により生息環境に影響をもたらす種。</p> <p>北海道の森林にのみ生息する。巣は球状巣と樹洞巣の2種類があり、繁殖は4～7月、新しく用意した巣で年1回か2回出産する。産子数は1～7子である。食性は樹木の種子、芽、果実、花、樹液、昆虫、きのこが主なものである。</p> <p>天塩川の小車大橋上流地区(H4,H10)、班溪橋下流地区(H4,H10)、名寄川の由仁内橋上流地区(H10)で確認された。</p>
	エゾシマリス <i>Tamias sibiricus lineatus</i>	<p>河畔林の減少・分断化と河畔林のヤナギ林への単純化により生息環境に影響をもたらす種。</p> <p>海岸沿いや近郊の森林、森林限界の2000mまで生息する。10～4月の5～7ヶ月間、水はけのよい砂層につくった地下巣で単独で冬眠する。繁殖は年1回で産子数は3～7子である。食性は木本と草本の若芽と種子で、昆虫も好む。</p> <p>天塩川の間寒別川合流点地区(10)、小車大橋上流地区(H10)、名寄大橋下流(H4)で確認された。</p>
	ミカドネズミ <i>Clethrionomys rutilus mikado</i>	<p>河畔林の減少・分断化と河畔林のヤナギ林への単純化により生息環境に影響をもたらす種。</p> <p>北海道にのみ生息する。繁殖期は4～9月頃で胎児数は2～7子である。食性はイネ科やカヤツリグサ科以外の植物、動物では昆虫類及び軟体動物を食べる。</p> <p>天塩川の間寒別川合流点地区(H10)、名寄大橋下流(H10)、サロベツ川の音類橋地区(H10)、名寄川の由仁内橋上流地区(H10)で確認された。</p>

天塩川水系流域における着目または留意すべき生物・生育地など

両生・爬虫・哺乳類	<p>エゾアカネズミ <i>Apodemus speciosus ainu</i></p>	<p>河畔林の減少・分断化と河畔林のヤナギ林への単純化により生息環境に影響をもたらす種。 河畔の広葉樹原生林に多く生息し、日本固有種である。基本的に夜行性で、活動は日没から3時間。年1~2回地下巣で出産し、産子数は平均で6.2子である。食性は種子・昆虫が中心で、植物根茎、緑体部も食べる。 天塩川の小車大橋上流地区(H4,H10)、名寄大橋下流(H10)、班渓橋下流地区(H4,H10)、名寄川の由仁内橋上流地区(H4,H10)で確認された。</p>
	<p>ヒメネズミ <i>Apodemus argenteus argenteus</i></p>	<p>河畔林の減少・分断化と河畔林のヤナギ林への単純化により生息環境に影響をもたらす種。 広葉樹林、針広混交林、針葉樹林、ハイマツ林など低地から高地まで広く分布する、日本固有種。夜行性で地上と樹上で活動する。採餌時間の7割以上を樹上で活動することもある。年1~2回地下巣で出産し、産子数は平均で6.2子である。食性は種子・昆虫が中心。 天塩川の小車大橋上流地区(H10)、班渓橋下流地区(H10)、名寄川の由仁内橋上流地区(H4,H10)で確認された。</p>
	<p>エゾクロテン <i>Martes zibellina brachyura</i></p>	<p>環境庁R L(1998年)情報不足：評価するだけの情報が不足している種、「緑の国勢調査報告書」における「すぐれた自然の調査」対象種。河畔林の減少・分断化と河畔林のヤナギ林への単純化により生息環境に影響をもたらす種。 低地から山地までの森林に生息する。北海道にのみ分布する種。巣は岩穴、樹洞で4月下旬~5月上旬に出産し、産子数は1~5子である。食性は主に小哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類など動物質が全体の約85%を占めている。 天塩川の幌延旧川地区(H10)、小車大橋上流地区(H10)、班渓橋下流地区(H4,H10)、で確認された。</p>
	<p>イタチ <i>Mustela itatsi itatsi</i></p>	<p>採餌空間、生息空間に水辺が必要な種。 平地や山林に生息するが比較的水辺を好む。繁殖期は4~5月で年1回出産し、産子数は平均4~5子である。食性はネズミ、昆虫、魚などの小動物をたべる。北海道では移入種。 天塩川の天塩河口橋地区(H10)、幌延旧川地区(H10)、名寄大橋下流(H4)で確認された。</p>
	<p>ミンク <i>Mustela vison</i></p>	<p>採餌空間、生息空間に水辺が必要な種。 日本では北海道にのみ生息する移入種である。 サロベツ川の音類橋地区(H10)、問寒別川の上問寒別地区(H10)で確認された。</p>
	<p>エゾシカ <i>Cervus hortulorum yesoensis</i></p>	<p>草食性の大型獣であり、広い生息空間を必要とする種。 落葉樹林に生息する。食昼間森林に棲むが、夜草原にでて草を食べることが多い。食性はイネ科を中心に春夏は双子葉草本類、秋冬はササ類、大木の種子、落ち葉、樹皮などを食べ、低質の食物を手当たり次第に大量に食べる。 天塩川の幌延旧川地区(H10)、問寒別川合流点地区(H10)、小車大橋上流地区(H10)、班渓橋下流地区(H4,H10)、名寄川の由仁内橋上流地区(H4,H10)で確認された。</p>

天塩川水系流域における着目または留意すべき生物・生育地など

鳥類	アカエリカイツブリ <i>Podiceps grisegena</i>	近年、生息に適する湖沼地の減少が憂慮される種。 日本では北海道の主に道北、道東で局地的に繁殖しているほか、冬鳥として各地に渡来する。繁殖期は湖沼に生息し、マコモなどの密生した水辺の浅瀬に水草を積み上げて皿形の浮き巣をつくる。産卵期は6～8月で卵数は3～6個である。魚類等を食べる。 天塩川の幌延旧川地区(H6,H12)、問寒別川の上問寒別(H12)で確認された。
	アオサギ <i>Ardea cinerea</i>	道北地方で繁殖が確認されている大型サギ類として採餌及び繁殖環境の保全に留意すべき種。 川、池沼、水田、干潟等に生息している。丘陵地の良く茂った林等に集団繁殖する。巣は樹上に小枝や枯れ草を積み重ねた粗雑な皿形で梢につくられることが多い。産卵期は4～5月で卵数は3～5個である。魚やカエル、昆虫類を餌とする。 天塩川の下車大橋上流地区(H6,H12)、名寄大橋下流地区(H12)、班溪橋下流地区(H6,H12)、名寄川の由仁内橋上流地区(H6,H12)で確認された。
	コハクチョウ <i>Cygnus columbianus</i>	北海道RDB(2001年)希少種：存続基盤が脆弱な種。渡来地周辺の環境保全に留意すべき種。 冬鳥として、湖沼、河口、広い川等に渡来する。家族群を単位した群れで生活する。水草を主な餌とし、水田などではイネの落ち穂を食べている。 天塩川の下車大橋上流地区(H12)で確認された。
	オシドリ <i>Aix galericulata</i>	北海道RDB(2001年)希少種：存続基盤が脆弱な種。繁殖数は少なく生息環境の保全に留意すべき種。 夏鳥として渡来する。山間の溪流や山地の湖沼などに生息するが、周囲に木の多い場所を好む。大木の樹洞などで繁殖する。穴の中に枯れ草で皿形の巣をつくり、自身の羽毛を敷く。産卵期は4月～7月で7～12個の卵を産む。主に植物質のものを餌とし、特にカシ類、ナラ類のどんぐりを好む。 天塩川の下車大橋上流地区(H12)、名寄川の由仁内橋上流地区(H6,H12)で確認された。
	ミコアイサ <i>Mergus albellus</i>	北海道RDB(2001年)絶滅危急種：絶滅の危機が増大している種。サロベツ川周辺の沼地は本種の本邦唯一の繁殖地として注目される種。 日本には主に冬鳥として渡来し、北海道北部で少数繁殖する。アイサ類の中で最も小形の種である。生息環境は湖沼や広い川で数羽から数十羽の群れで生活し、海に出ることもある。繁殖地では樹洞に営巣し、6～9個の卵を産む。魚を餌とする。 天塩川の河口大橋地区(H12)、振老旧川地区(H12)、東産土樋門付近の河跡湖(H6,H12)、雄信内大橋地区(H6)、下車大橋上流地区(H12)、名寄大橋下流地区(H12)で確認された。
	カワアイサ <i>Mergus merganser</i>	天塩川上流域は繁殖に適する環境と考えられ、巣立幼鳥を伴う群れが比較的多く記録される河川として留意すべき必要がある。 日本には主に冬鳥として渡来し、北海道北部、東部で少数繁殖する。アイサ類の中で最も大きな種である。生息環境は広い湖沼や大きな川で数羽から数十羽の群れで生活している。繁殖地では川や湖の岸辺の岩のすき間、樹洞に営巣する。産卵期は4～6月で自分の羽を敷いた上に7～14個の卵を産む。魚を餌とする。 天塩川の下車大橋上流地区(H6,H12)、名寄大橋下流(H6,H12)、班溪橋下流地区(H6,H12)、名寄川の由仁内橋上流地区(H6,H12)で確認された。また、天塩川上流域(46.3～183.0km)の平成12年度調査では幼鳥を伴う群れが多数確認された。
	ミサゴ <i>Pandion haliaetus</i>	環境庁R L(1997年)準絶滅危惧：存続基盤が脆弱な種、北海道RDB(2001年)絶滅危急種：絶滅の危機が増大している種。河口部及び内陸河川の中大型魚の生息状況等河川の自然度を示す指標となる鳥類。 留鳥。海岸や大きな川、湖に生息する。人気のない海岸の岩の上や岩棚、水辺に近い大きな木の上に枯れ枝を積んで皿形の巣をつくり、4月頃2～3個の卵を産む。魚を餌とする。 天塩川の天塩河口地区(H12)、河口大橋地区(H6,H12)、幌延旧川地区(H6,H12)、問寒別川合流点地区(H6,H12)、下車大橋上流地区(H6)、サロベツ川の音類橋地区(H6)、問寒別川の上問寒別地区(H6,H12)で確認された。

天塩川水系流域における着目または留意すべき生物・生育地など

<p>鳥類</p>	<p>オジロワシ <i>Haliaeetus albicilla</i></p>	<p>国指定天然記念物、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種の指定種、「緑の国勢調査報告書」における「すぐれた自然の調査」対象種、環境庁R L (1998年)絶滅危惧 B類: Aほどではないが近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの、北海道R D B (2001年)絶滅危惧種: 絶滅の危機が瀕している種。河口に近い砂丘林で繁殖が確認されている。 少数は道北、道東地方で留鳥として生息、繁殖するが、大半は冬鳥として渡来する。海岸、河口、海沿いの水田や湖沼を生活圏とする。海岸や湖沼に近い原生林の大木の枝上に木の枝を積み重ねて皿形の巣をつくる。3月下旬頃1~2個の卵を産む。主にサケ、マス、タラなどの大型魚を捕らえるがカモなどの水鳥や幼獣を捕獲することもある。 天塩川の河口大橋地区(H6,H12)、振老地区(H6,H12)、振老旧川地区(H12)、幌延旧川地区(H12)、問寒別川合流点地区(H6,H12)、小車大橋上流地区(H12)、名寄大橋下流(H6,H12)、班溪橋下流地区(H6)、問寒別川の上問寒別地区(H12)で確認された。</p>
	<p>チュウヒ <i>Circus spilonotus</i></p>	<p>環境庁R L (1997年)絶滅危惧 類、北海道R D B (2001年)絶滅危急種: 絶滅の危機が増大している種。サロベツ原野周辺は数少ない生息・繁殖地として留意すべき種。 少数は北日本で繁殖するが、多くは冬鳥として渡来する。草地、農耕地、牧草地などに生息し、背丈の高い草の中、林の中に姿を隠して休息していることが多い。広いアシ原などの地上に小枝やアシの茎を積んで皿形の巣をつくり、4月下旬から5月に4~6個の卵を産む。 天塩川の河口大橋地区(H6,H12)、振老地区(H6,H12)、幌延旧川地区(H6,H12)、問寒別川合流点地区(H12)、サロベツ川の音類橋地区(H6,H12)で確認された。</p>
	<p>オオジシギ <i>Gallinago hardwickii</i></p>	<p>環境庁R L (1997年)準絶滅危惧、北海道R D B (2001)希少種: 存続基盤が脆弱な種。「緑の国勢調査報告書」における「すぐれた自然の調査」対象種。日豪渡り鳥協定に登録されている種で、近年生息適地の減少が心配される種。 夏鳥として渡来する。繁殖期には湿生の草原とその周辺で生息する。巣は地上につくられ、普通は4個の卵を産み、メスだけが抱卵するらしいが詳しい繁殖生態は分かっていない。餌は長い嘴を泥の中に突きさして小動物を捕らえる。 天塩川の河口大橋地区(H6,H12)、振老地区(H6)、幌延旧川地区(H6)、問寒別川合流点地区(H6,H12)、小車大橋上流地区(H6,H12)、名寄大橋下流(H6,H12)、班溪橋下流地区(H6,H12)、サロベツ川の音類橋地区(H6,H12)、問寒別川の上問寒別地区(H6,H12)、名寄川の由仁内橋上流地区(H6,H12)で確認された。</p>
	<p>カワセミ <i>Alcedo atthis</i></p>	<p>「緑の国勢調査報告書」における「すぐれた自然の調査」対象種。餌となる魚類、河岸の営巣地、安全な河畔林の環境等、生息状況が河川の自然度を示す指標となる種。 山地から平地の川、池、湖沼などの水辺に生息する。水辺の土の崖にくちばしを使って50~100cm位の深さの巣穴を掘り、巣穴の一番奥には柔らかい土と魚の骨を敷き、その上卵を産む。産卵期は3~8月で4~7個の卵を産む。止水域や緩流域などに生息する水生昆虫や魚介類を餌とする。 天塩川の幌延旧川地区(H12)、小車大橋上流地区(H6,H12)、名寄大橋下流(H6,H12)、班溪橋下流地区(H6)、サロベツ川の音類橋地区(H12)、問寒別川の上問寒別地区(H6,H12)、名寄川の由仁内橋上流地区(H6,H12)で確認された。また、平成12年度の調査では巣穴が天塩川の9.5~40.8kmにかけて10箇所、67.5kmで1箇所、サロベツ川の0~0.1km、5.5km、5.6kmでそれぞれ1箇所ずつ確認された。</p>
	<p>ショウドウツバメ <i>Riparia riparia</i></p>	<p>河川の垂直裸地及び高水敷の草地を主たる生活域とする種(河川改修の影響を受ける環境に生息する種)。空中を飛ぶ昆虫類の発生源、河岸の営巣地等、河川の自然度を示す指標となる種。夏鳥として渡来(北海道では5月頃)し、日本では北海道だけで繁殖するが、近年は少なくなってきた。川、湖沼、海岸近くの土手や崖などに横穴を掘って巣をつくり、集団で営巣する。巣穴は直径5~9cmで深さは深いもので1mに及ぶものあり、6~7月に3~5個の卵を産む。空中を飛ぶ昆虫類を飛びながら捕食する。 天塩川の天塩河口地区(H12)、河口大橋地区(H12)、振老地区(H6,H12)、幌延旧川地区(H6,H12)、問寒別川合流点地区(H6,H12)、班溪橋下流地区(H12)、問寒別川の上問寒別地区(H6)で確認された。また、天塩川の3.4~131.7kmにかけて多くの巣穴が確認された。このうち左岸の13.3km、14.3km、26.9km、131.7km、右岸の27.3kmの巣穴は200以上の大規模なものが確認された。</p>



天塩川水系流域における着目または留意すべき生物・生育地など

鳥類	カワガラス <i>Cinclus pallasii</i>	<p>生息環境が河川の水質を示す指標となる種（餌となる水生昆虫類は良好な水質の河川に棲む）。</p> <p>留鳥。河川の上流部に生息し、1月から繁殖期に入る。滝の裏の岩のすき間や堰堤の水抜き穴に、蘚類を材料とした直径30cmの大きな球形の巣をつくる。産卵期は2～6月、4～5個の卵を産む。流れの速い浅瀬に潜ってカワゲラ、カゲロウの幼虫等の水生昆虫を主な餌としている。</p> <p>天塩川の車大橋上流地区(H12)、名寄大橋下流(H12)、班溪橋下流地区(H12)、名寄川の由仁内橋上流地区(H6,H12)で確認された。</p>
	エゾセンニュウ <i>Locustella fasciolata</i>	<p>北海道でのみに繁殖する河畔草地の鳥で、近年生息環境の激減が心配される種。</p> <p>夏鳥として渡来する。ヤナギ類が点々と生えるような湿原の草原や湿った林縁等に生息する。低木の枝や草の茎に、枯れ茎やイネ科植物の葉で深い椀形の巣をつくる。産卵期は6～7月で卵数は3～5である。</p> <p>天塩川の河口大橋地区(H12)、振老旧川地区(H6,H12)、幌延旧川地区(H6,H12)、問寒別川合流点地区(H6,H12)、車大橋上流地区(H6,H12)、名寄大橋下流(H6,H12)、班溪橋下流地区(H6,H12)、サロベツ川の音類橋地区(H6,H12)、問寒別川の上問寒別地区(H12)、名寄川の由仁内橋上流地区(H6,H12)で確認された。</p>
	シマセンニュウ <i>Locustella ochotensis</i>	<p>河口付近の砂丘草地・灌木林の環境保全の指標となる種。</p> <p>夏鳥として主に北海道の海岸地帯に渡来し、繁殖する。草原の草の間に潜って生息する。草原の地上や低い枝の上に、イネ科植物の葉や茎で深い椀形の巣をつくる。産卵期は6～7月で卵数は5～6個である。主に昆虫類を餌にしている。</p> <p>天塩川の河口大橋地区(H6,H12)、振老地区(H6)、サロベツ川の音類橋地区(H12)で確認された。</p>
	マキノセンニュウ <i>Locustella lanceolata</i>	<p>河口付近の砂丘草地・灌木林の環境保全の指標となる種。</p> <p>夏鳥として渡来し、北海道で繁殖する。平地の背の低い開けた草原に生息する。草の根元や株の中に、イネ科植物の葉や茎を材料に浅い椀形の巣をつくる。産卵期は北海道で6～7月で卵数は3～5個である。昆虫やクモを餌とする。</p> <p>天塩川の河口大橋地区(H6,H12)、振老地区(H6)、サロベツ川の音類橋地区(H12)で確認された。</p>

## (2) 河川の自然環境

### 上流部

上流部は、源流部から上士別付近までが山間を流れる溪流河川で、士別から名寄市街地周辺までが扇状地を流れる急流河川である。河岸や高水敷にはヤナギ・ケヤマハンノキ群落が生育している。河床は砂礫質で、トビケラ類、カゲロウ類などの底生動物が生息している。魚類はヤマベ（ヤマメ）やウグイ類などが生息し、水際にはトミヨ類などが生息する。ワンドや水たまりにはエゾサンショウウオの生息場もある。鳥類の個体数はアオジが優占種となっている他、マガモなどの大規模分布地も見られる。



上流部の河道状況（士別市平和橋上流）

出典：旭川開発建設部

	生 息 種 名
植生	ヤナギ・ケヤマハンノキ群落、クサヨシ群落、カモガヤ・コヌカグサ群落、ミクリ（準絶滅）等
陸上昆虫類等	アオゴミムシ、ヒメコガネ、コムラサキ、ケマダラカミキリ（準絶滅）、アイヌキンオサムシ（重要）、ヒメギフチョウ（準絶滅、希少）、エゾクロバエ（希少）等
底生動物	カゲロウ、トビケラ等
魚類	サクラマス・ヤマベ（ヤマメ）（留意）、カワヤツメ、エゾウグイ、フクドジョウ、トミヨ（重要）、キタノトミヨ（希少、重要）等
両生類・は虫類	エゾアカガエル、エゾサンショウウオ（留意、自然、重要）等
鳥類	アオサギ、カワアイサ、マガモ、カワガラス、エゾセンニュウ、ショウドウツバメ、イワツバメ、オジロワシ（国天、絶滅）、オオタカ（絶滅、絶滅類）、オオジシギ（準絶滅、希少、自然）、オシドリ（希少）、ハイツカ（希少）、コノハズク（自然）等
哺乳類	エゾアカネズミ、エゾリス、エゾタヌキ、エゾユキウサギ、ヒメネズミ、エゾシカ、エゾクロテン（自然）等

国天：国指定天然記念物 絶滅：絶滅法指定種 準絶滅：環境省レッドデータブック準絶滅危惧種  
 絶滅類：環境省レッドデータブック絶滅危惧類 留意：北海道レッドデータブック留意種  
 希少：北海道レッドデータブック希少種 重要：日本の重要な魚類、両生類・は虫類指定種  
 自然：緑の国勢調査報告書における優れた自然調査対象種



**ミクリ**

**ミクリ科**

レッドデータブックの準絶滅危惧種に指定されている。中上流部の高水敷内の水たまりの水面付近で生育を確認している。



**ヒメギフチョウ**

**アゲハチョウ科**

姫岐阜蝶の意であり、北海道のものは別亜種なのでエゾヒメギフチョウともいう。道央・道東・道北に産地が散在し、春早くに発生し、カタクリやエゾリュウキンカの密を吸う。天塩川流域では、上・下流部で確認されている。



**トミヨ類**

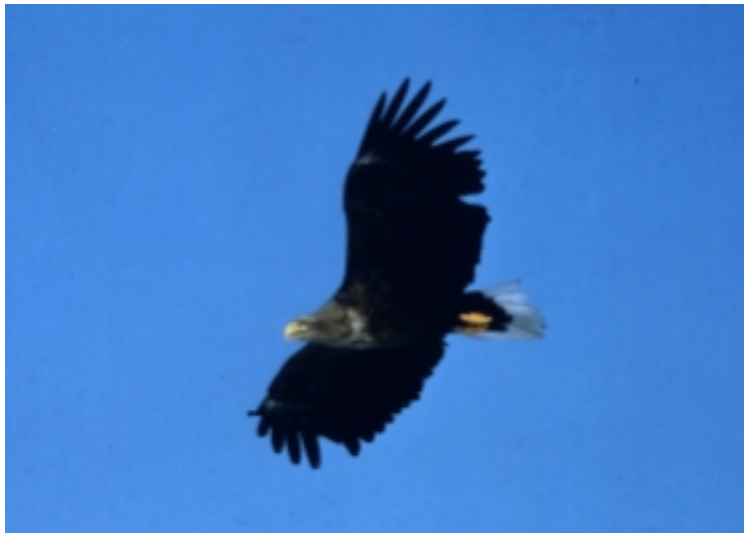
**トゲウオ科**

トミヨは第2回自然環境保全基礎調査の対象種（貴重種）であり、天塩川上流、イバラトミヨは、天塩川上流とサロベツ川で確認されている。



**エゾサンショウウオ                      サンショウウオ科**

イモリ・サンショウウオの仲間(有尾目)は全世界で約300種。その中でサンショウウオ科が最も原始的で、日本にはこのサンショウウオ科が10数種生息し、世界的にも宝庫といえる。エゾサンショウウオは北海道の固有種で、平地にも山地にも生息、春～夏に、水中に寒天のコイルのような卵を産む。天塩川水系の全域に分布する。



**オジロワシ                                      ワシタカ科**

天然記念物に指定されており、主に冬鳥として渡来するが夏も少数生息している。海岸や河口、湖沼などに生息する。名寄川との合流部周辺大橋下流、土別の班溪橋下流で確認されている。

## 中流部

中流部は、上流部に比べ流れも緩やかになり山間平野を流れる河川で、所々に山間狭窄部が見られる。河岸や高水敷には主にヤナギ類、一部ヤチダモやハルニレ等の群落や、クサヨシ群落が分布し、一部の湿地性の河岸付近でミクリの生育を確認している。底生動物はトビケラ類が多いが、シマイシビルなども生息する。魚類はウグイ類が多いが、サケ、サクラマスなどの遡河性回遊魚も見られる。また、旧川の智恵文沼にはヒブナが生息している。鳥類の個体数はアオジが優占種となっている他、アオサギ、オオジシギや、カワアイサ等のガンカモ類などの集団分布地も見られる。



中流部の河道状況（音威子府村<sup>おさしま</sup>箴島橋上流）

出典：旭川開発建設部

	生 息 種 名
植生	ヤナギ・ケヤマハンノキ群落、クサヨシ群落、カモガヤ・コヌカグサ群落、オオイタドリ群落、ミクリ（準絶滅）等
陸上昆虫類等	オオクロナガゴミムシ、エンマコオロギ、ヘビトンボ、コムラサキ、チャイロスズメバチ（希少）、カラフトヨツスジハナカミキリ（希少）、カラフトマルトゲムシ（希少）、エカシマルトゲムシ（希少）、エゾクロバエ（希少）、キタアカシジミ（絶滅 類、留意）、オオウスバカゲロウ（希少）、ナツアカネ（希少）、ムカシトンボ（留意）、オオルリオサムシ（自然、重要）、アイヌキンオサムシ（重要）、ヒメギフチョウ（準絶滅、希少）等
底生動物	トビケラ、シマイシビル等
魚類	サクラマス・ヤマベ（ヤマメ）（留意）、ワカサギ、サケ、カワヤツメ、ヤチウグイ、エゾウグイ、マルタウグイ、フクドジョウ、ヒブナ（地域）、キタノトミヨ（希少、重要）、ハナカジカ（留意）等
両生類・は虫類	エゾアカガエル、エゾサンショウウオ（留意、自然、重要）、等
鳥類	アオサギ、マガモ、カワガラス、エゾセンニュウ、オオヨシキリ、コヨシキリ、ヒバリ、イワツバメ、カワアイサ、コハクチョウ（希少）、オシドリ（希少）、ミコアイサ（絶滅危惧）、カワセミ（自然）、オオタカ（絶滅、絶滅 類）、オオジシギ（準絶滅、希少、自然）、ミサゴ（準絶滅、絶滅危惧）等
哺乳類	エゾユキウサギ、エゾアカネズミ、エゾリス、エゾシマリス、ミカドネズミ、ヒメネズミ、エゾタヌキ、エゾシカ、エゾクロテン（自然）等

国天：国指定天然記念物 絶滅：絶滅法指定種 準絶滅：環境省レッドデータブック準絶滅危惧種  
 絶滅 類：環境省レッドデータブック絶滅危惧 類 絶滅危惧：北海道レッドデータブック絶滅危  
 惧種 留意：北海道レッドデータブック留意種 希少：北海道レッドデータブック希少種  
 地域：北海道レッドデータブック地域個体群 重要：日本の重要な魚類、両生類・は虫類指定種  
 自然：緑の国勢調査報告書における優れた自然調査対象種



**サクラマス**                      **サケ科**

体長13cm～16cm、成長すると、メスは銀白色になり海へ下る。オスの多くは川に残る。メスは60cm以上に成長すると産卵のため川を遡上する。生涯河川で生息するものをヤマベ(ヤマメ)という。天塩川の中流域及び支川に広く分布している。



**クサヨシ群落**                      **イネ科**                      出典：H11水辺の国勢調査〔植物〕

九州以北の日本各地に生育する多年草の草本。細い地下茎で広がっており群落を形成する。初夏に花を咲かせると、高さは2m程度になる。花穂は最初が円柱状、やがて広がって散開するが、稔ると再度、円柱状になる。天塩川中流部の代表的な河岸植生である。



**カワセミ**                              **カワセミ科**

夏鳥として渡来し、湖沼や池、川のほとりに生息する。好んで決まった杭や石、横枝に止まり、水中に飛び込んで魚を捕る。池の上や川に沿って矢のように飛び、土手に穴を掘り営巣する。天塩川の中流域及び下流域に生息している。

## 下流部

下流部は、大きく蛇行しながら泥炭地が分布する氾濫平野を流れ、ここには、捷水路工事による多くの旧川が残されている。河口付近には砂州が発達し、ミズナラ群落や、ハマニンニクなど海浜性の植生が特徴的となっている。河岸や高水敷には、ヤナギ類やヨシ群落が分布し、ミズナラ林にはオオルリオサムシ、リングシジミなどの昆虫類も生息する。感潮区間であることからヤマトシジミ、ゴカイなどの底生動物や、サケ、ワカサギなどの回遊性の魚類も多い。サロベツ川や問寒別川ではイトウが捕獲されている。鳥類では、国指定天然記念物であるオジロワシやマガン・ヒシクイなどの集団分布地が見られる。



下流部の河道状況（天塩大橋左岸上流）

出典：旭川開発建設部

	生 息 種 名
植生	ミズナラ群落、トドマツ・ミズナラ群落、ヨシ群落、ハマニンニク、コウボウムギ、ノダイオウ等
陸上昆虫類等	イソコモリグモ、ミズムシ(希少)、ミズカマキリ、ヘビトンボ、アオゴミムシ、ヒシバツタ、コムラサキ、リングシジミ(自然)、オオルリオサムシ(自然、重要)、キタイトトンボ(重要)、ルリイトトンボ(重要)、ナツアカネ(希少)、ヒメリスアカネ(希少、自然)、リングシジミ(希少)、カバイロシジミ(自然、重要)、シロスジコガネ(重要)、ケマダラカミキリ(準絶滅、留意)、カラフトヨツスジハナカミキリ(希少)等
底生動物	ヤマトシジミ、ゴカイ、イトメ、スジエビ、モクズガニ等
魚類	カワヤツメ、サケ、ワカサギ、アシシロハゼ、ヌマガレイ、イトウ(絶滅 類、絶滅 B類、重要)、サクラマス・ヤマベ(ヤマメ)(留意)、トミヨ(重要)、エゾトミヨ(準絶滅、重要)、キタノトミヨ(希少、重要)、イバラトミヨ(重要)、ハナカジカ(留意)等
両生類・は虫類	エゾアカガエル、エゾサンショウウオ(留意、自然、重要)等
鳥類	アカエリカイツブリ、ショウドウツバメ、エゾセンニュウ、シマセンニュウ、マキノセンニュウ、ミコアイサ(絶滅危惧)、ミサゴ(準絶滅、絶滅危惧)、マガン(国天、希少)、オジロワシ(国天、絶滅)、オオタカ(絶滅、絶滅 類)、オオジシギ(準絶滅、希少、自然)、チュウヒ(絶滅 類、絶滅危惧)、オシドリ(希少)、ハイタカ(希少)、ハヤブサ(絶滅、絶滅 類)、カワセミ(自然)等
哺乳類	イタチ、ミンク、エゾシカ、ミカドネズミ、エゾアカネズミ、エゾキウサギ、エゾシマリス、トウキョウトガリネズミ(絶滅 類)、エゾクロテン(自然)等

国天：国指定天然記念物 絶滅：絶滅法指定種 準絶滅：環境省レッドデータブック準絶滅危惧種

絶滅 類：環境省レッドデータブック絶滅危惧 類

絶滅 B類：環境省レッドデータブック絶滅危惧 B類 絶滅危惧：北海道レッドデータブック絶滅危惧種

絶滅危惧：北海道レッドデータブック絶滅危惧種 留意：北海道レッドデータブック留意種

希少：環境省北海道レッドデータブック希少種 重要：日本の重要な魚類、両生類・は虫類指定種

自然：緑の国勢調査報告書における優れた自然調査対象種



**ミズナラ群落**

**ブナ科**

葉は倒卵形、先はとがり基部はくさび形、やや薄く上面は緑色、下面は淡色で密に星状毛がある。高さ20～25m、直径70～100cm程度に成長。天塩川下流部の河辺の代表的な植生である。



**イトウ**

**サケ科**

イトウは日本の絶滅のおそれのある野生生物危急種であり、夏季は川の中上流部で過ごし、晩秋降下して下流部で越冬し、翌年の春には産卵のため、中上流部へ遡河するといわれている。



**サケ**

**サケ科**

体長65cmくらいの大型の回遊魚である。海では銀白色であるが、産卵のため川にのぼる頃には、体が黒ずみ、紅色の模様が混ざる。生まれた川にもどって砂利底からきれいな地下水の湧き出る所に産卵する。天塩川の中下流域及び支川に広く分布している。現在、幌延町（天塩川）、中川町（パンケナイ川）、美深町（美深川）の3箇所に捕獲場があり、稚魚の放流事業が行われている。





**ワカサギ**

**キュウリウオ科**

3月～5月に遡上して産卵する。体長6～15cm程度。天塩川下流部に分布している。



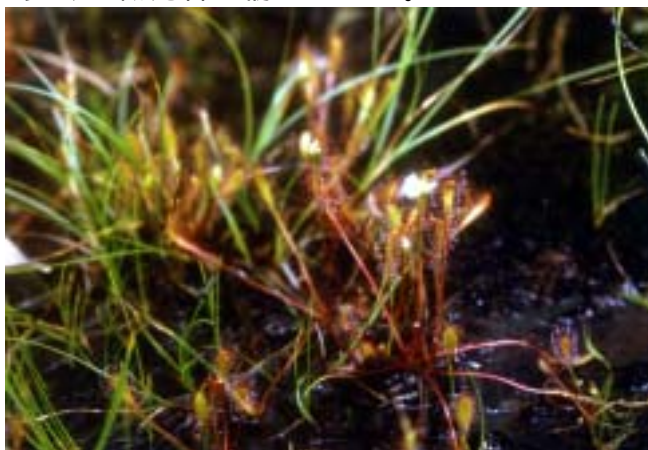
**マガン**

**ガンカモ科**

旅鳥で、北海道には秋と春の渡り途中に寄る。秋はあまり見られないが、春の北上時には毎年、石狩川流域の沼に大群で立ち寄るが最近では数が減り1971年天然記念物に指定。水田や農耕地で穀類等を食べる。天塩川では下流部のサロベツ原野で確認されている。

### (3) サロベツ湿原の自然環境

サロベツ湿原には、多くの貴重な生物種が生息し、特に、高層湿原から中間湿原は、ナガバノモウセンゴケやトウキョウトガリネズミ、コモチカナヘビ等が生息・分布し、貴重性の高い生息環境を呈している。また、砂丘林についても、オジロワシ、オオタカ等の希少な猛禽類やクロテンなど生態系の上位種が生息し、良好な環境を保持している。なお、湿原内にはパンケ沼、パンケ沼の湖沼が分布し、水鳥の中継地としても重要である。湿原内では 100 種類以上の花が咲き乱れる観光地として多くの観光客が訪れている。



ナガバノモウセンゴケ



トウキョウトガリネズミ

出典：H10 水辺の国勢調査 [哺乳類]



コモチカナヘビ

## 2 - 2 特徴的な河川景観や文化財等

### (1) 景観及び景勝地

#### 利尻礼文サロベツ国立公園

利尻礼文サロベツ国立公園は、1974年(昭和49年)に指定された、日本最北端の国立公園である。

その範囲は利尻・礼文の2島と、稚内の抜海から稚咲内海岸、さらに稚内市、豊富町、幌延町の1市2町にまたがるサロベツ原野に及んでいる。

サロベツ原野は、北海道の最北端に広がる23,000haに及ぶ広大な湿原であり、その中央に位置する原生花園では、約100種にも及ぶ湿原植物や花々が見られる。

特に、6月から7月にかけて開花するエゾカンゾウの鮮やかな黄色は見事な景色を演出し、多くの観光客が訪れる。

また、サロベツ原野のパンケ沼はヤマトシジミの特産地であり、シジミ漁が行われている。



サロベツ原野を上空から望む

出典：旭川開発建設部



サロベツ原野に咲き乱れるエゾカンゾウ



パンケ沼でのシジミ漁

### 天塩岳道立自然公園

天塩岳は、豊富な高山植物や鳥獣類の保護と北海道民のレクリエーションや健康増進を図ることを目的に、1978年(昭和53年)道立公園に指定されている。

天塩川の源流である北見山地の主峰天塩岳(1,558m)は北見山地の最高峰であり、山頂からは大雪山連峰、十勝岳、芦別岳や遠くは利尻山まで眺望できる。

天塩岳には4つの登山コースがあり、毎年6月第1日曜日には天塩岳山開きが行われ、多くの登山客で賑わいを見せている。



天塩岳



天塩岳山頂

## テッシ

天塩川はアイヌ語のテシ・オ・ペツ(Tesh・o・pet) - 築(魚を捕る仕掛け)・多い・川 - が語源である。

テッシの多くは岩が築のような形に川を横断しているところから呼ばれ、多くに神話伝説を残している。

幕末の探検家松浦武四郎は、「大岩両方より出来り、テッシの形に成たり、むかし鬼神が作りしと云い、此川の惣名テッシホは此処より起りし名と言えり」と記している。

このようにテッシは天塩川の特徴的な景観であり、その周辺には良好な自然環境が形成されている。

また、カヌー下りにおいては美しい景観と共に絶好のスリルを味わえるポイントとして人々を楽しませている。



恩根内テッシ

出典：旭川開発建設部



紋穂内テッシ

出典：旭川開発建設部

### 天塩川の旧川

天塩川では昭和 9 年以降、本格的な治水事業が開始され、洪水被害軽減のために蛇行箇所を切り替え、洪水の流れを良くする捷水路工事が多数行われている。

これにより発生した旧川は原始の天塩川の姿を物語る貴重な水辺空間となっている。一部の旧川では、水辺空間を利用した公園整備が進み、人々の憩いの場として活用されている。

また、名寄市の智恵文沼にはヒブナが生息し、地元の小学校では繁殖活動が行われている。さらに、美深町の旧川「美深アイランド」では過去に天塩川に生息していたチョウザメの増殖・研究活動が行われている。



美深アイランド



智恵文沼で釣りを楽しむ愛好家

■下流部

番号	名称	新水路延長(km)	旧河道延長(km)	掘削・浚渫土量(千m <sup>3</sup> )	着工年	通水年	河川区域
1	サロベツ第1号水路	0.7	2.4	282.50	S33	S33	○
2	サロベツ第2号水路	0.7	1.3	332.50	S33	S33	○
3	曙新水路	1.2	2.5	677.00	S34	S34	○
4	上幌延1号新水路	0.4	1.2	242.00	S32	S32	○
5	上幌延2号新水路	0.8	3.8	508.45	S32	S32	○
6	東ウブシ新水路	0.8	3.3	781.00	S27	S31	○
7	円山新水路	0.7	4.1	615.00	S36	S36	○
8	雄信内新水路	0.8	2.2	1,046.00	S45	S47	○
9	問寒別新水路	0.9	2.8	1,523.20	S48	S50	○
10	コクネツ新水路	1.5	4.9	2,308.00	S46	S51	○
11	歌内新水路	0.6	2.0	1,635.00	S39	S45	○
12	大富新水路	0.9	1.5	623.00	S52	S54	○
13	中川第1新水路	0.7	3.0	110.00	S22	S25	×
14	中川第2新水路	1.5	7.0	221.00	S22	S25	×
小計		12.2	42.0	10,904.65			

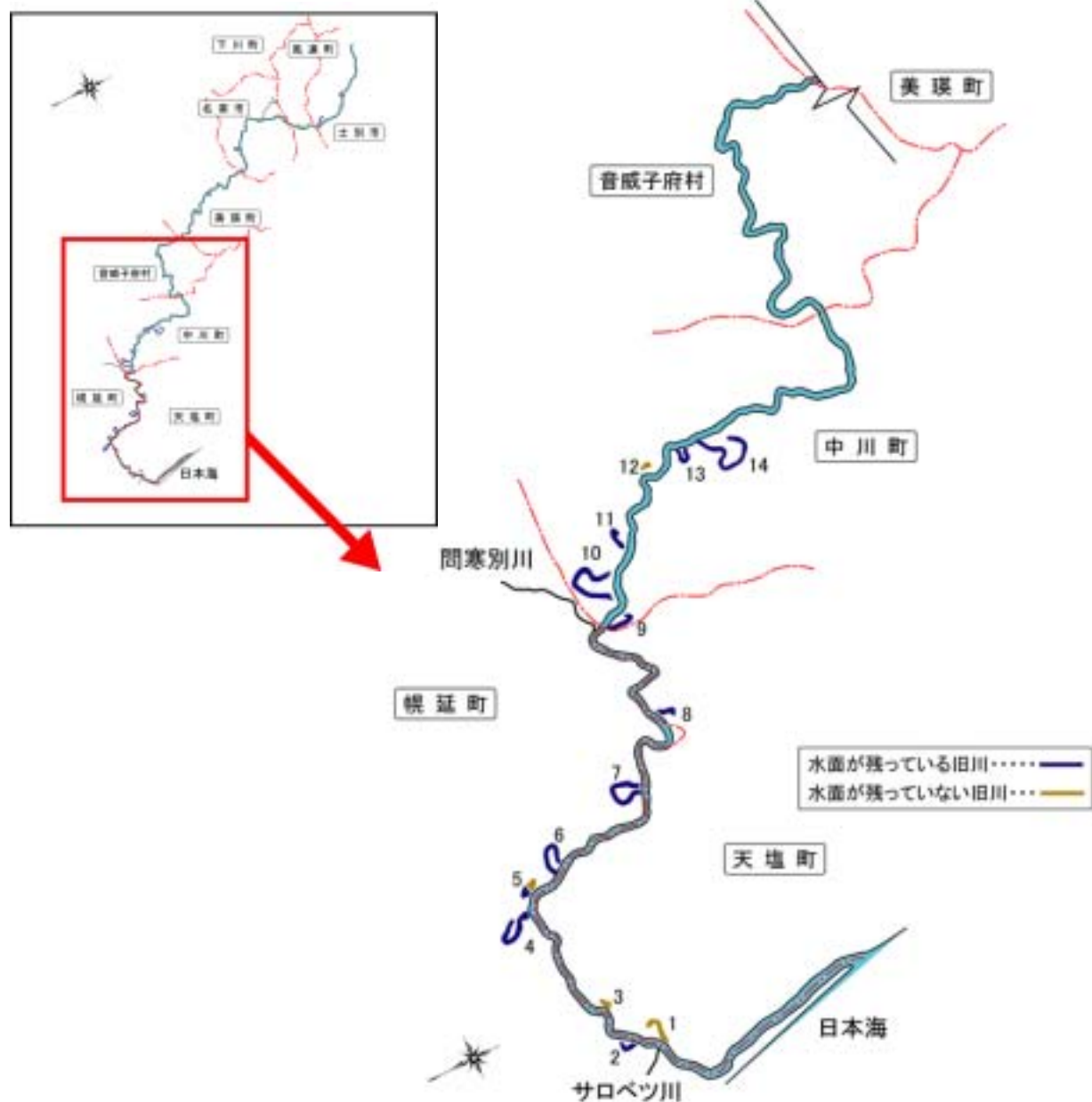


図 - 8 - 1 捷水路工事箇所図

## (2) 文化財及び史跡

### 文化財

天塩川流域では、国指定の文化財が2箇所、道指定が1箇所ある。このうち国指定の天然記念物として、「名寄鈴石」「名寄高師小僧」があり、道指定の天然記念物として、「稚咲内海岸砂丘林」がある。

「名寄鈴石」は、名寄市郊外の緑丘と呼ばれる河成段丘の畑の中から発見されたものであり、直径3cm～6cm程度の球または楕円体状で、赤茶褐色または暗褐色の粗雑な表面を有する岩塊である。これを振るとカラカラと鈴のような音を発することから鈴石あるいは鳴石と呼ばれている。

「名寄高師小僧」は、鈴石と同様、河成段丘の畑の中から発見され、地下水に溶けた鉄分が土壌中の植物体の周りにこれと交代しながら水酸化鉄(褐鉄鉱、沼鉄鉱)として沈殿した後、中の植物が腐って消失し、中空の管状、樹板状になったものであり、我が国の代表的な産地として指定された。

「稚咲内海岸砂丘林」は、豊富町の日本海側沿いに幅1.6km～2.0km、長さ20kmにわたって続いており、砂丘上に成育したカシワ林、針広混交林及びトドマツ・エゾマツ林から構成されている。その立地の景観とともに特異な海岸林の形態を示している。



名寄鈴石



名寄高師小僧



稚咲内海岸砂丘林

出典：天塩川治水史



## 史跡

天塩川の川筋を中心に先史時代における多数の遺跡が発見されている。無土器時代の石器は九十九山遺跡・日進篠原遺跡・モサナル遺跡等で発見されている。特にモサナル遺跡は名寄川沿いの台地上に立地する遺跡で、大小様々な形の石器が発見されている。

縄文時代(早期・前期・中期・後期・晩期)のものとしては、早期のものでは名寄の智東C遺跡で土器を備えた集石墓が見つかり、当時の埋葬法を知る貴重な発見がされている。

約 7,500 年前の縄文時代前期になると、解氷による海水面の上昇があり、遺跡も上土別遺跡、多寄遺跡など現在の上流域に多く分布している。多寄遺跡では丸棒に刻み目をつけてころがしながら文様をつけた平底の土器が発見されている。

約 5,000 年前の縄文時代中期では、水が引き始め現在の地形のほぼ原型ができあがった。中期の遺跡は流域の各地で発見されているが、特に、名寄の智東B遺跡では住居跡まで残っている。

縄文時代後期・晩期の遺跡は流域であまり発見されていない。それでも名寄の智東C遺跡では墓状の穴と備えられた大型の土器が見つかった。

その後の縄文時代では、薄く全体を擦って整形した土器が作られた。この時代の遺跡としては豊富遺跡、ポンピラ遺跡、天塩川口遺跡などがある。

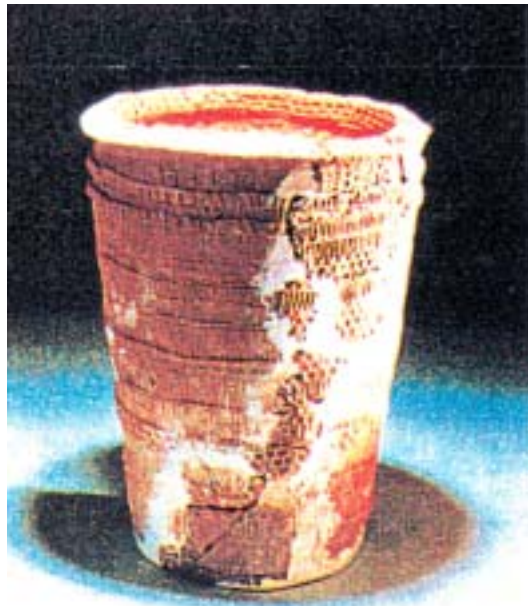
先住の人々であるアイヌの遺跡としては、天塩川口チャシ、<sup>うたない</sup>歌内チャシ、オフイチャシ、<sup>ほらうち</sup>茨内チャシ、<sup>ちえぶん</sup>智恵文チャシ、ニセオチャシなど川近くの小高い丘陵の先端を空壕により区画して造られたチャシ(アイヌ語で柵囲い、砦の意)などがある。発見された中ではオフイチャシが最大のものである。



図 - 9 天塩川流域の主な遺跡位置図



縄文早期の集石墓(名寄市智東 C 遺跡) 「名寄市文化財調査報告書より」  
出典：名寄市文化財調査報告書



縄文前期の回転押型文の土器(土別市多寄遺跡) 「土別市立博物館蔵」  
出典：天塩川治水史



川口遺跡(幌延町)

## その他

松浦武四郎の北海道命名の地の碑が音威子府村の<sup>おとにしら</sup>歳島にある。松浦武四郎は安政4年(1857)に天塩から石狩川上流への道路開さく調査のため天塩川を遡った。その調査記録を要約・刊行したのが「天塩日誌」であり、武四郎は其中で、音威子府村の川筋に住んでいたアイヌの家に宿泊し、アエトモという長老と話をした時に「ホッカイドウ」という名称の発想をしたと記述している。武四郎はアイヌの言葉を十分理解していたが、「カイナー」(男の意、カイチーが女の意)という言葉不思議に思っていた。アエトモは「カイとはこの国に生まれた者、ナは敬語である」と武四郎に教えた。武四郎はこれを根拠に、「北加伊道」と命名し、その後「加伊」を「海」にあて「北海道」という名が誕生した。



北海道命名の地の碑(松浦武四郎命名)

出典：音威子府村役場ホームページ

<http://www.hokkai.or.jp/otoineppu/takeshiro/meimei.html>

## 2 - 3 河川環境を取り巻く背景

現代社会において、国土の約 70%を山岳が占め、残りの河川流域の扇状地に文化、資産、人口が集中する我国にとって河川は様々な面で大きな影響を与えてきた。

現在の河川は、治水・利水・河川環境といった3つの面からの管理の必要性が生じ、国の重点施策として各地で積極的に治水事業が推進されている。また、河川行政を施策する上で河川環境整備は、重要な柱として位置付けられている。

天塩川上流域の環境整備事業は土別市、名寄市の2市において行われており、名寄市では昭和55年度より曙橋上下流左岸箇所始まり、都市計画許可のおりた昭和56年4月より野球場、サッカー場など運動施設を中心に整備が行われ、人と川の結びつきにより生活環境を向上させ、市の活性化を図ろうという発想から、河川公園整備事業に積極的な姿勢で取り組んでいる。

土別市では、旧川となり用途廃止された河川敷を利用した水郷公園と、昭和54年3月付けで都市計画事業認可の公園づくりとの一貫した環境づくりが推進され、住みよいまちづくりをめざしてきている。

現在、中川町においても環境整備事業が進められており、パークゴルフ場等が整備され、地域住民の憩いの場として活用されている。

また、ダウン・ザ・テッシ・オ・ベツ等の全国的なカヌー大会が開催されるなどカヌー人口が急速に増加しており、急増するカヌー利用に配慮し、天塩川の各地にカヌーの発着場(カヌーポート)の整備が進められている。



ダウン・ザ・テッシ・オ・ベツの開催の様子  
(天塩川温泉付近のカヌーポート)

## 天塩川水系河川環境管理基本計画（空間管理計画）

河川環境管理基本計画は河川改修事業と自然環境保全の調和を図るべく定められる計画である。天塩川水系の河川環境管理は天塩川の特長、社会的要請を踏まえ、「拓けゆく大地のいぶきを伝える朔北の大河 潤いのある暮らしをゆうゆうたる流れにもとめて」を基本テーマに3つの基本理念と6つの基本方針のもと、平成2年に策定された。

### - 基本理念 -

#### 朔北の自然を育む清流、天塩川

日本最北の大河である天塩川は、果てしなく広がるサロベツ原野や悠々の流れが刻んだ渓谷など、豊かな自然と動植物を育てている。これらの貴重な自然環境を保全していくと共に人と自然との共生を求めて継承していく。

#### 憧憬の水際をデザインする清流、天塩川

豊かな営みと、安らぎとうるおいある水辺環境を与えてきたが、さらにぬくもりが感じられるマチづくりの一翼を担うよう、豊かな河川環境を活用するとともに、魅力ある河川空間を創造する。

#### 明日へ向けて飛翔する天塩川

天塩川は不屈の開拓精神とともに朔北の地の発展の礎となってきた。また、豊かな自然に抱かれた天塩川は新たな時代への多くの可能性を秘めている。

このような人と自然が織りなす息吹の中で、より多くの人々が集い、交流する新たな北の拠点として、明日に向けて飛翔する天塩川を目指す。

### - 基本方針 -

天塩川水系の河川空間環境管理は、基本理念を踏まえて河川空間の適正な保全と利用を図るため、次に示す事項を基本方針とする。

#### 治水及び利水計画との整合

河川環境の管理は、治水・利水の管理と一体不可分なものであり、「天塩川水系工事实施基本計画」等と不十分整合を図り、治水・利水機能に支障のない範囲において、河川環境の保全と利用が適正に行われるよう管理するものとする。

### 流域との調和

流域の環境と河川の環境は、相互に密接に関連していることから、関係自治体等の河川環境に関連する施策と調整を図り管理する。なお、河川空間環境を保全・創造するためには、河川特有の機能を活用し、河川空間の有限性と社会的要素との調整を図りつつ、天塩川全体として調和のとれたものとする。

### 湿原の優れた自然の保全

天塩川の下流部には国立公園に指定されているサロベツ原野を有しており、この湿原にはかけがえのない自然が残され、数多くの貴重な動植物が見られるなど、人々に大自然との出会いを楽しませている。

このため、湿原特有の優れた自然環境を保全し、後世に継承する空間とする。

### 豊かな河川環境の保全と利用

緑に囲まれた清流やダム湖、三日月湖や溪谷など自然豊かな河川環境は、人々の心にやすらぎを与え、また広い高水敷は、緑あふれる河川空間として採草地等に利用されており、人々の生活に潤いを与えている。

このため、人と自然の共生を図り、自然豊かな環境を保全するとともに、緑豊かな潤いの空間として活用する。

### 憩いと健康の水辺空間の創造

天塩川の広大な河川空間は、スポーツ・レクリエーション等の場として多くの人々に親しまれている。

このため、市街地周辺における数少ない水と緑とのオープンスペースとして人々が憩い、心身の健康増進が図れる水辺空間を創造する。

### 北の拠点づくりに寄与する水辺空間の活用

天塩川の河川空間は川まつりやいかだ下り、スキーマラソンなどのイベントに積極的に利用されており、自然あふれる湖沼や湿原などは貴重な観光資源となっている。このような流域社会の発展に寄与してきた河川空間をさらに活用し、流域が一体となった新たな北の拠点づくりを目指す一環として、イベントや観光などを通し地域の連携を図り、各地から人々が集い、交流できる場を形成する。



## 2 - 5 自然公園等の指定状況

天塩川流域内では、「利尻・礼文・サロベツ国立公園」、「天塩岳道立自然公園」の2つが自然公園法の指定を受けている。流域内における鳥獣保護区は22箇所が指定され、休猟区が3箇所、銃猟禁止区域が2箇所指定されている。

また、松山ピアシリ湿原が自然環境保全地域に指定されている。

表 - 1 自然公園

図面番号	名 称	指定年月日	保護計画による地区、地域面積 (ha)			
			特別保護区	特別地域	普通地域	計
	利尻礼文サロベツ 国立公園	49.9.20	7,998	13,086	138	21,222
	天塩岳 道立自然公園	53.1.6	-	9,369	-	9,369

表 - 2 自然環境保全地域等

図面番号	名 称	市 町 村 名	面積 (ha)
	松山ピアシリ	名寄市、美深町、雄武町	1,882

表 - 3 休猟区

図面番号	名 称	面積 (ha)	存 続 期 間
	剣淵休猟区	6,040	H11.10.1~H13.9.30
	天塩南東部休猟区	13,510	H11.10.1~H14.9.30
	豊富南部休猟区	30,287	H10.10.1~H13.9.30

表 - 4 銃猟禁止区域

図面番号	名 称	面積 (ha)	存 続 期 間
1	鏡沼	40	H7.10.1~H17.9.30
2	兜沼	116	H9.10.1~H14.9.30

表 - 5 鳥獣保護区

図面番号	名 称	面積 (ha)	存 続 期 間
(1)	サロベツ (国設、渡)	2,560	H4.3.1~H23.9.30
(2)	和寒 (道設、森)	490	S59.10.1~H16.9.30
(3)	ペオツペ (道設、森)	300	S60.10.1~H17.9.30
(4)	朝日 (道設、森)	374	S58.10.1~H15.9.30
(5)	ふどう (道設、誘)	21	S61.10.1~H18.9.30
(6)	風連 (道設、森)	467	S58.10.1~H15.9.30
(7)	忠烈布 (道設、森)	932	S59.10.1~H16.9.30
(8)	西風連 (道設、森)	301	S61.10.1~H18.9.30
(9)	旭東 (道設、誘)	35	H6.10.1~H26.9.30
(10)	となみが丘 (道設、誘)	172	H6.10.1~H26.10.1
(11)	新下川 (道設、森)	513	S60.10.1~H17.9.30
(12)	一の橋 (道設、森)	383	S60.10.1~H17.9.30
(13)	松山 (道設、森)	838	S63.3.30~H20.3.29
(14)	中川 (道設、森)	516	S61.10.1~H18.9.30
(15)	北大中川地方演習林 (道設、大)	18,075	S61.10.1~H19.9.30
(16)	智恵文沼 (道設、渡)	23	H5.10.1~H25.9.30
(17)	中多寄 (道設、渡)	10	H7.10.1~H27.9.30
(18)	函岳 (道設、森)	3,514	H10.10.1~H28.9.30
(19)	北大演習林問寒別 (道設、森)	323	S61.10.1~H18.9.30
(20)	幌延 (道設、誘)	187	H7.3.5~H16.9.30
(21)	男能富 (道設、森)	168	H9.10.1~H19.9.30
(22)	夕来稚咲内 (道設、森)	4,692	H2.10.1~H12.9.30

森：森林鳥獣生息地保護区 渡：集団渡来地保護区 誘：誘致地区保護区 大：大規模生息地保護区



